YAMAHA

プリメインアンプ

A-S2200

取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機は、高音質なステレオ再生をご家庭で楽しむためのプリメインアンプです。
- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書と「安全上のご注意」をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
- 本製品には保証書を別途添付しています。保証書に「購入日、販売店名」が正しく記載されていることを必ずご確認ください。

本機の特長

- ◆ フローティング＆バランス　パワーアンプ回路
- ◆ 入力から出力までフルバランス伝送
- ◆ パラレルボリューム方式トーンコントロール回路
- ◆ 独立 4 回路の大容量電源
- ◆ 左右対称設計
- ◆ 完全ディスクリート構成のフォノアンプ
- ◆ ローインピーダンス駆動の高性能ヘッドホンアンプ

ご使用になる前に

本書の記載について

- 本書では、本機をお使いになる方のために、機能や接続方法などを説明しています。
- 本書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。
- 仕様および外観は予告なく変更することがあります。
- 「 **警告**」は、死亡する可能性または重症を負う可能性が想定される内容です。
- 「 **注意**」は、傷害を負う可能性が想定される内容です。
- 「**注意**」は、製品の故障、損害や誤作動を防ぐため、お守りいただく内容です。
- 「 **メモ** 」は、製品についての補足情報です。

付属品

同梱されている付属品をご確認ください。

- リモコン
- 単 4 乾電池（2 本）
- 電源コード
- 取扱説明書（本書）
- 安全上のご注意

目次

本機の特長 3

ご使用になる前に 4
- 本書の記載について 4
- 付属品 4

各部の名称と機能 5
- フロントパネル 6
- リアパネル 10
- リモコン 12
  - リモコンに電池を入れる 14
  - リモコンを使う 14

接続 15
- 接続全体図 16
- スピーカーを接続する 18
  - スピーカーケーブルで接続する 18
  - バナナプラグで接続する 19
  - Y 型ラグで接続する 19
- バイワイヤリング接続する 19
- バランス接続する 20
- トリガー接続する 20
- リモート接続する 21
  - 別の部屋から本機を操作する 21
  - ヤマハ製機器間でリモート接続する . . 21
- 電源コードを接続する 22

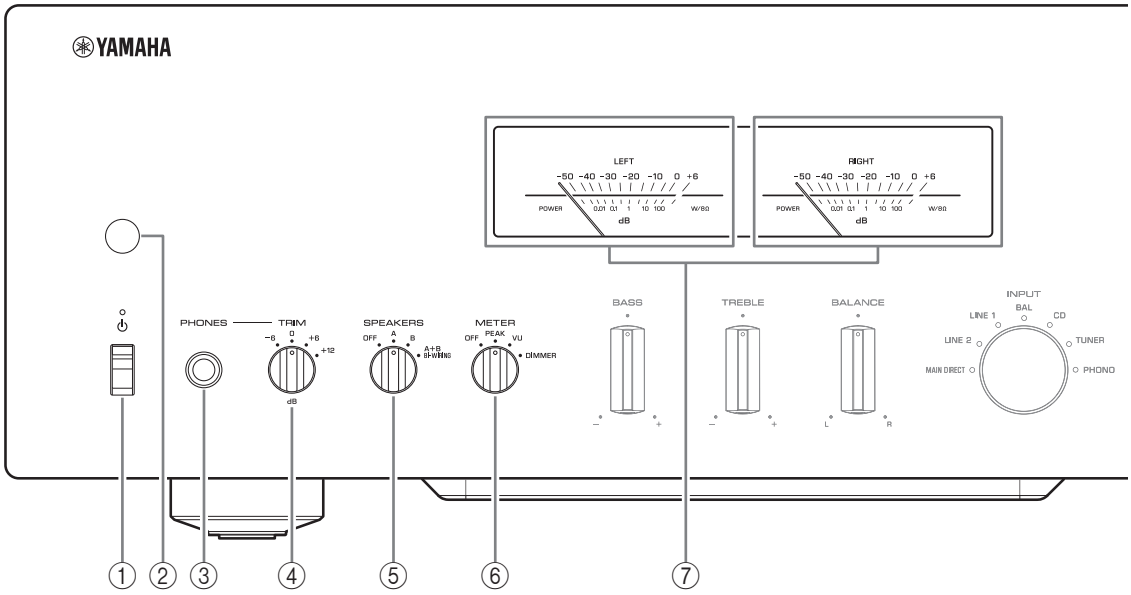
付録 23
- 仕様 24
- ブロックダイヤグラム 25
- 音響特性 26
  - トーンコントロール特性 26
  - 全高調波歪率 26
  - 全高調波歪率（PHONO） 27
- 困ったときは 28
- お手入れ 29

各部の名称と機能

この章では、フロントパネル、リアパネル、リモコンの
各部の名称および機能について説明します。

各部の名称と機能

フロントパネル



① ⏻（電源）スイッチ / インジケーター

⏻（電源）スイッチ	電源の状態	インジケーター
上側	オン	点灯
	スタンバイ	暗い点灯
下側	オフ	消灯

⏻（電源）スイッチが上側のときに、リモコンの ⏻AMP キーを押すと本機の電源がオンとスタンバイで切り替わります。また、以下の場合も本機はスタンバイになります。

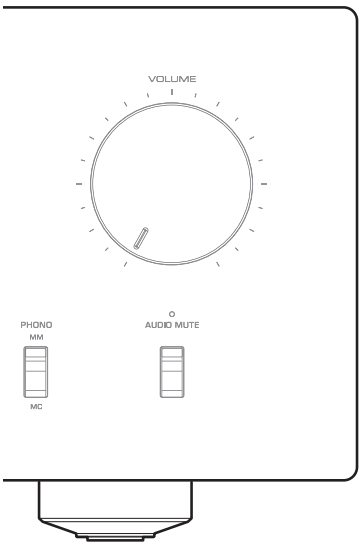
- オートパワースタンバイ機能が動作したとき（→ 10 ページ）
- 本機とトリガー接続している機器の電源をオフにしたとき（→ 20 ページ）

注意

本機を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。本機は電源がオフの状態でも微電流が流れています。

メモ

- 本機の電源をオンにしてから音声が再生されるまでに数秒かかります。
- 本機の電源をオフにしてから 10 秒以内に電源をオンにしないでください。ノイズが発生することがあります。
- 本機がスタンバイのときに電源を入れるには、電源スイッチを下側にして電源をオフにしてから上側にします。
- 本機の電源がスタンバイのときに、電源プラグをコンセントから抜き、再度差し直すと本機の電源はオンになります。



② **リモコン受光部**

リモコンの信号を受信します。（→ 14 ページ）

③ **PHONES（フォンズ）端子**

ヘッドホンを接続します。

メモ

- ヘッドホンを接続すると本機は以下のようになります。
  - 本機に接続したスピーカーからは音は出ません。
  - PRE OUT 端子からは信号が出力されません。
  - 入力ソースとして MAIN DIRECT を選択できません。
- 入力ソースとして MAIN DIRECT を選択しているときは、PHONES 端子からは信号が出力されません。

④ **TRIM（トリム）セレクター**

ヘッドホンアンプのゲインを切り替えます。
ご使用になるヘッドホンに合わせて調整してください。

選択できるゲイン：
− 6 dB、0 dB、+6 dB、+12 dB

⑤ **SPEAKERS（スピーカー）セレクター**

リアパネルの SPEAKERS L/R CH A と B 端子に接続したスピーカーを下記のように切り替えます。

OFF：スピーカーから出力しません。

A：A 端子に接続したスピーカーから出力します。

B：B 端子に接続したスピーカーから出力します。

A+B BI-WIRING：A 端子、B 端子両方から出力します。バイワイヤリング接続するときは、この位置に設定します。（→ 19 ページ）

注意

2 組のスピーカー（A+B）を使用する場合は、インピーダンスが 8Ω 以上のスピーカーをお使いください。

⑥ **METER（メーター）セレクター**

メーターの機能を下記のように切り替えます。

OFF：メーターの動作と照明をオフにします。

PEAK（ピーク）：メーターがピークレベルメーターとして動作します。ピークレベルメーターは、音声出力の瞬間最高レベルを表示します。

VU：メーターが VU（Volume Unit）レベルメーターとして動作します。VU レベルメーターは、音声出力の実効値を表示し、人間の感覚に近い値を表示します。

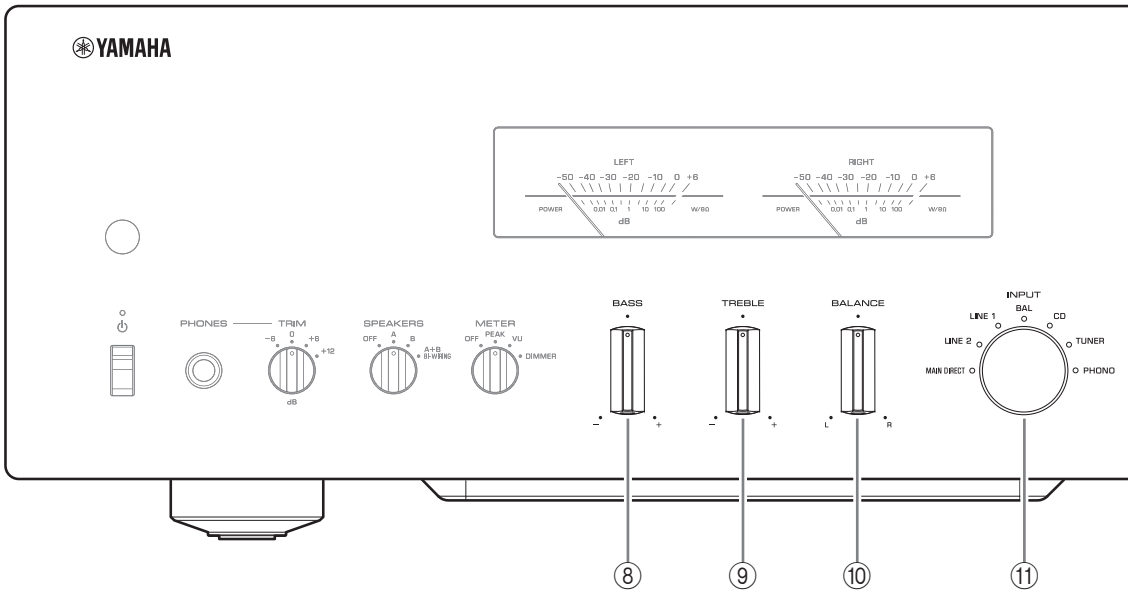
DIMMER（ディマー）：DIMMER を選択するとメーターの明るさが段階的に変化します。お好みの明るさになったときに他の設定項目に切り替えると明るさが確定します。

⑦ **メーター（LEFT（レフト）/RIGHT（ライト））**

LEFT（左）チャンネルと RIGHT（右）チャンネルの音声出力レベルを表示します。

各部の名称と機能

フロントパネル



⑧ BASS（低音）つまみ

低音域の音量を調整します。

コントロール範囲：− 10 dB ～ 0 ～ +10 dB

⑨ TREBLE（高音）つまみ

高音域の音量を調整します。

コントロール範囲：− 10 dB ～ 0 ～ +10 dB

⑩ BALANCE つまみ

左右のスピーカーのオーディオ出力バランスを調整します。スピーカーの位置や室内の条件による音のアンバランスを補正します。

メモ

- BASS と TREBLE を両方 0 にセットすると、オーディオ信号はトーンコントロール回路をバイパスします。
- BASS、TREBLE、BALANCE の操作は、MAIN IN 端子の入力信号、および LINE 2 OUT 端子の出力信号に影響しません。

⑪ INPUT（入力）セレクター／インジケーター

入力ソースを選択します。INPUT セレクターで選択した入力ソースのインジケーターが点灯します。選択した入力ソースのオーディオ信号は LINE 2 OUT 端子にも出力されます。

MAIN DIRECT：MAIN IN 端子に接続した機器を選択します。

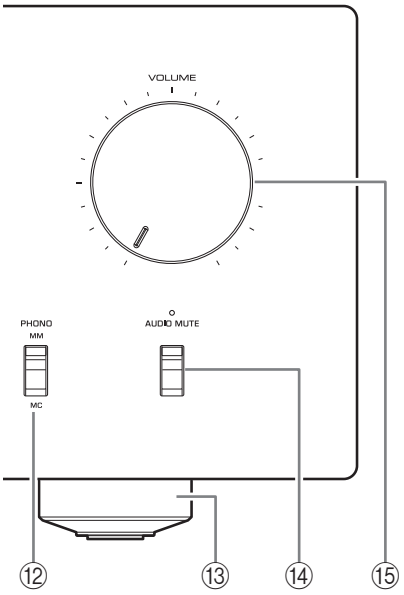
LINE 1/LINE 2：LINE 1 または LINE 2 端子に接続した機器を選択します。

BAL：BAL 端子に接続した機器を選択します。

CD：CD 端子に接続した CD プレーヤーを選択します。

TUNER：TUNER 端子に接続したチューナーを選択します。

PHONO：PHONO 端子に接続したターンテーブルを選択します。



メモ

- 入力ソースに MAIN DIRECT を選択すると、PRE OUT、LINE 2 OUT、PHONES の各端子からはオーディオ信号が出力されません。
- LINE 2 を選択している間は、LINE 2 OUT 端子からオーディオ信号が出力されません。

⑫ PHONO スイッチ

リアパネルの PHONO 端子に接続したターンテーブルのカートリッジにあわせて MM または MC を選択します。

メモ

ターンテーブルのカートリッジを交換する際は、本機の電源をオフにしてください。

⑬ 脚

本機が不安定な場合には、脚を回して高さを調整してください。

⑭ AUDIO（オーディオ） MUTE（ミュート） スイッチ / インジケーター

スイッチを押すとインジケーターが点灯し音量が約 20dB 下がります。再度スイッチを押すとインジケーターが消灯し、もとの音量に戻ります。

⑮ VOLUME（ボリューム）（音量）つまみ

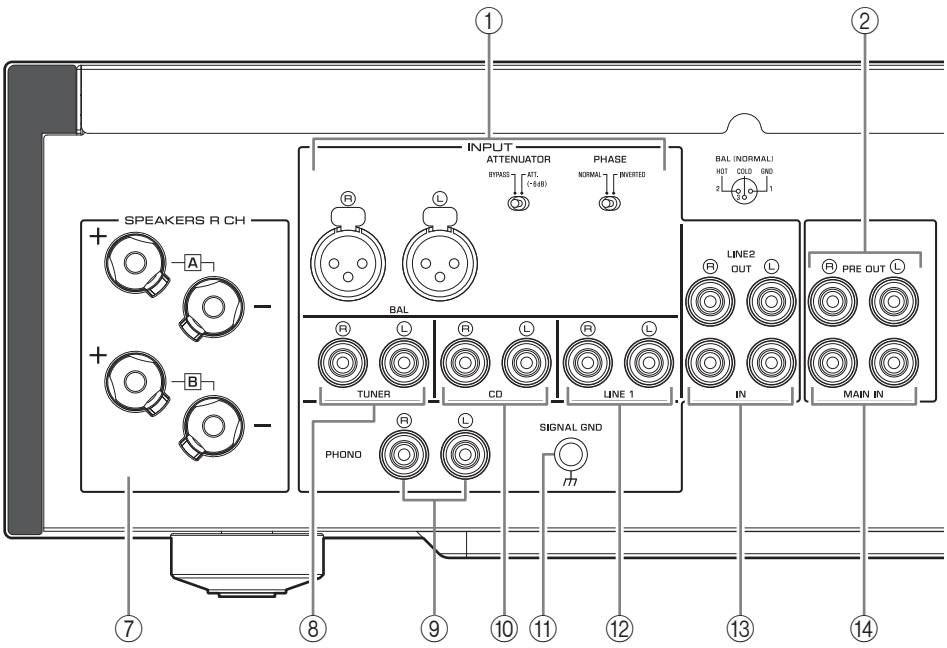
音量レベルを調節します。この調節は LINE 2 OUT 端子からの出力レベルには影響しません。

注意

本機の入力ソースに MAIN DIRECT を選択している場合、音量は固定となります。音量は、MAIN IN 端子に接続した外部アンプ側で調節してください。

各部の名称と機能

リアパネル



① BAL（バランス入力）端子

メモ

接続する再生機器に合わせて、ATTENUATOR スイッチ、PHASE スイッチを切り替えてください。（→ 20 ページ）

② PRE OUT（プリアウト）端子

メモ

- PRE OUT 端子から出力される信号は、SPEAKERS L/R CH 端子に出力される信号と同じチャンネルの信号です。
- PRE OUT 端子から出力される信号に対しても以下の設定は有効です。
  - BASS
  - TREBLE
  - BALANCE
  - VOLUME

③ AUTO（オート）POWER（パワー）STANDBY（スタンバイ）スイッチ

ON：本機の電源がオンのとき、何も操作されない状態が 8 時間続いた場合、本機は自動的にスタンバイになります（オートパワースタンバイ機能）。

OFF：自動的にスタンバイになりません。

④ TRIGGER（トリガー）IN（イン）端子

トリガー機能に対応する外部機器を接続することができます。（→ 20 ページ）

⑤ REMOTE（リモート）IN（イン）/OUT（アウト）端子

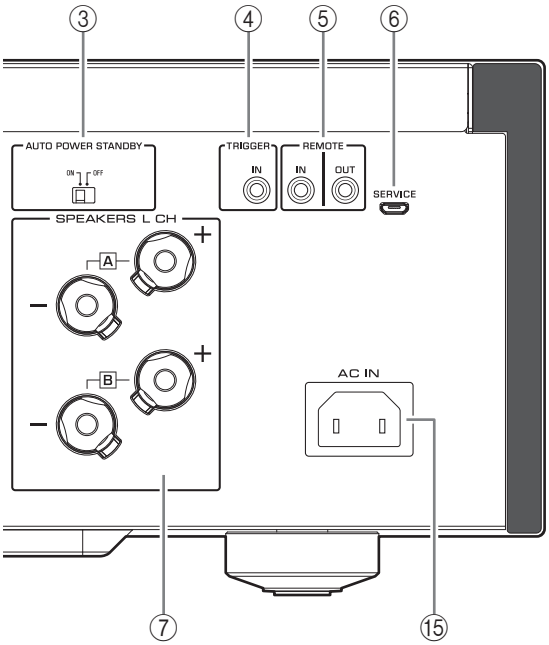
リモート機能に対応する外部機器を接続することができます。（→ 21 ページ）

⑥ SERVICE（サービス）端子

製品検査用の端子です。

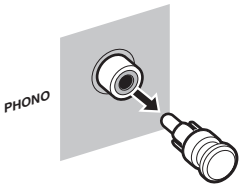
⑦ SPEAKERS（スピーカー）L/R CH（チャンネル）（スピーカー）端子

⑧ TUNER（チューナー）（チューナー入力）端子



⑨ PHONO（フォノ入力）端子

ショートピンが取り付けられています。
PHONO 端子に外部機器を接続するときは、ショートピンを取り外してください。



⚠ 注意

外したショートピンを誤ってお子様が飲み込むおそれがありますのでご注意ください。

注意

ショートピンは、LINE 2 OUT や PRE OUT 端子に取り付けないでください。故障の原因になります。

メモ

PHONO 端子を使用しないときは、ノイズの混入を防ぐためにショートピンを取り付けてください。

⑩ CD（CD 入力）端子

⑪ SIGNAL（シグナル） GND（グラウンド） 端子

ターンテーブルを接続するときは、SIGNAL GND 端子も接続してください。接続すると、ノイズを軽減できる場合があります。

⚠ 注意

SIGNAL GND 端子のネジを左に回し過ぎると、ネジが本機から外れます。外れたネジを誤ってお子様が飲み込むおそれがありますのでご注意ください。

メモ

安全アースではありません。

⑫ LINE 1（ライン 1 入力）端子

⑬ LINE 2（ライン 2）端子

アナログ音声入出力を持つ外部機器を接続します。

⑭ MAIN（メイン） IN（イン） 端子

音量調節機能のある外部機器を接続することで本機をパワーアンプとして使用できます。

注意

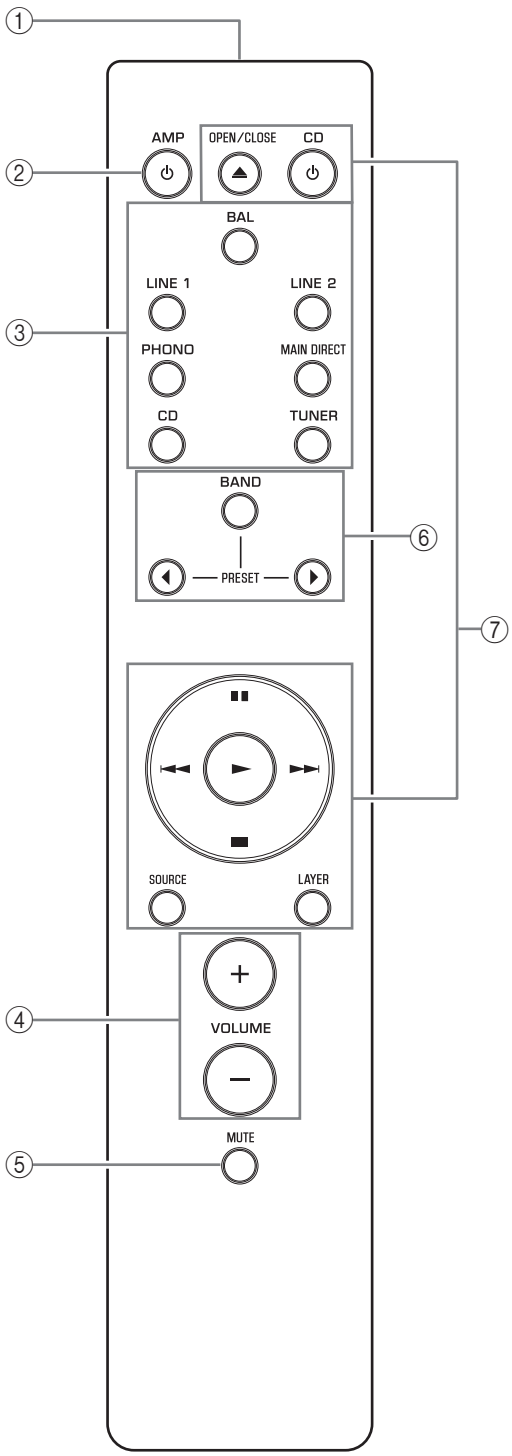
本機の入力ソースに MAIN DIRECT を選択している場合、音量は固定となります。音量は、MAIN IN 端子に接続した外部アンプ側で調節してください。

⑮ AC IN 端子

付属の電源コードを接続します。
（→ 22 ページ）

各部の名称と機能

リモコン



① **赤外線信号送信部**

本体に向かって赤外線信号を送信します。
(→ 14 ページ)

② **⏻ AMP（アンプ）キー**

本機の電源をオンとスタンバイで切り替えます。
(→ 6 ページ)

③ **入力選択キー**

入力ソースを選択します。
選択した入力ソースのオーディオ信号はLINE 2 OUT 端子にも出力されます。

BAL：BAL 端子に接続した機器を選択します。

LINE 1/LINE 2：LINE 1 または LINE 2 端子に接続した機器を選択します。

PHONO：PHONO 端子に接続したターンテーブルを選択します。

MAIN DIRECT：MAIN IN 端子に接続した機器を選択します。

CD：CD 端子に接続した CD プレーヤーを選択します。

TUNER：TUNER 端子に接続したチューナーを選択します。

メモ

- 入力ソースに MAIN DIRECT を選択すると、PRE OUT、LINE 2 OUT、PHONES の各端子からはオーディオ信号が出力されません。
- LINE 2 を選択している間は、LINE 2 OUT 端子からオーディオ信号が出力されません。

④ **VOLUME ＋ / －（音量＋ / －）キー**

音量レベルを調節します。この調節は LINE 2 OUT 端子からの出力レベルには影響しません。

注意

本機の入力ソースに MAIN DIRECT を選択している場合、音量は固定となります。音量は、MAIN IN 端子に接続した外部アンプ側で調節してください。

⑤ **MUTE キー**

音量が約 20dB 下がります。再度押すともとの音量に戻ります。

⑥ **チューナー操作キー**

ヤマハ製チューナーを操作します。チューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

⑦ **CD プレーヤー操作キー**

ヤマハ製 CD プレーヤーを操作します。CD プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

⏏ **OPEN（オープン） / CLOSE（クローズ）（開閉）キー**：CD プレーヤーのディスクトレイを開閉します。

⏻ **CD キー**：CD プレーヤーの電源をスタンバイ / オンします。

► **（再生）**：CD プレーヤーの再生を開始します。

▮▮ **（ポーズ）**：CD プレーヤーの再生を一時停止します。► または ▮▮ を押すと再生が再開します。

■ **（停止）**：CD プレーヤーの再生を停止します。

⏮ / ⏭ **（頭出し）**：
トラックの頭出しをします。

SOURCE（ソース）：CD プレーヤーで再生したいソースを選択します。キーを押すたびに再生するソースが切り替わります。

LAYER（レイヤー）：ハイブリッドスーパーオーディオ CD の再生レイヤーを、スーパーオーディオ CD と CD 間で切り替えます。

メモ

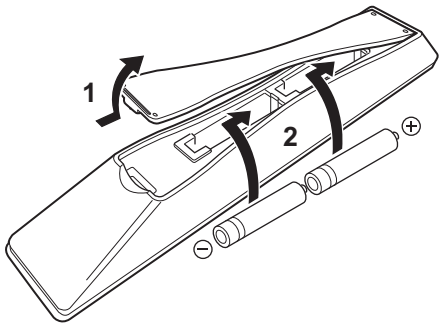
チューナー操作キーと CD プレーヤー操作キーは、ヤマハ製であっても、一部対応していない機器があります。

各部の名称と機能

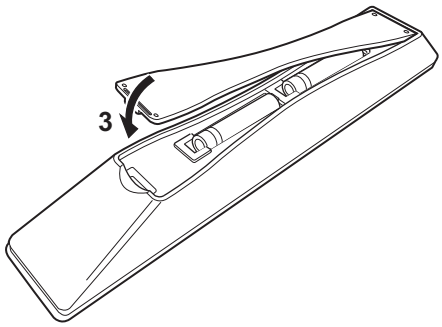
■ リモコンに電池を入れる

1 電池カバーを外す。

2 電池ケース内に記載されている極性（＋ / －）に従って、単 4 乾電池（2 本）を電池ケースに挿入する。

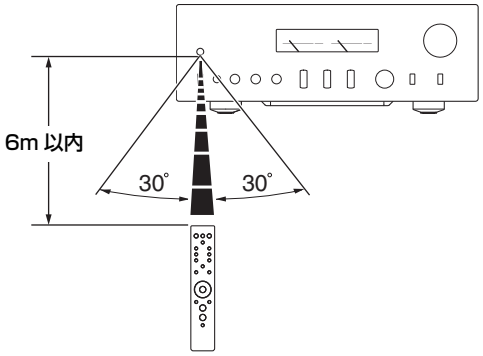


3 電池カバーを装着する。



■ リモコンを使う

本体のリモコン受光部に向け、下図の範囲内で操作してください。



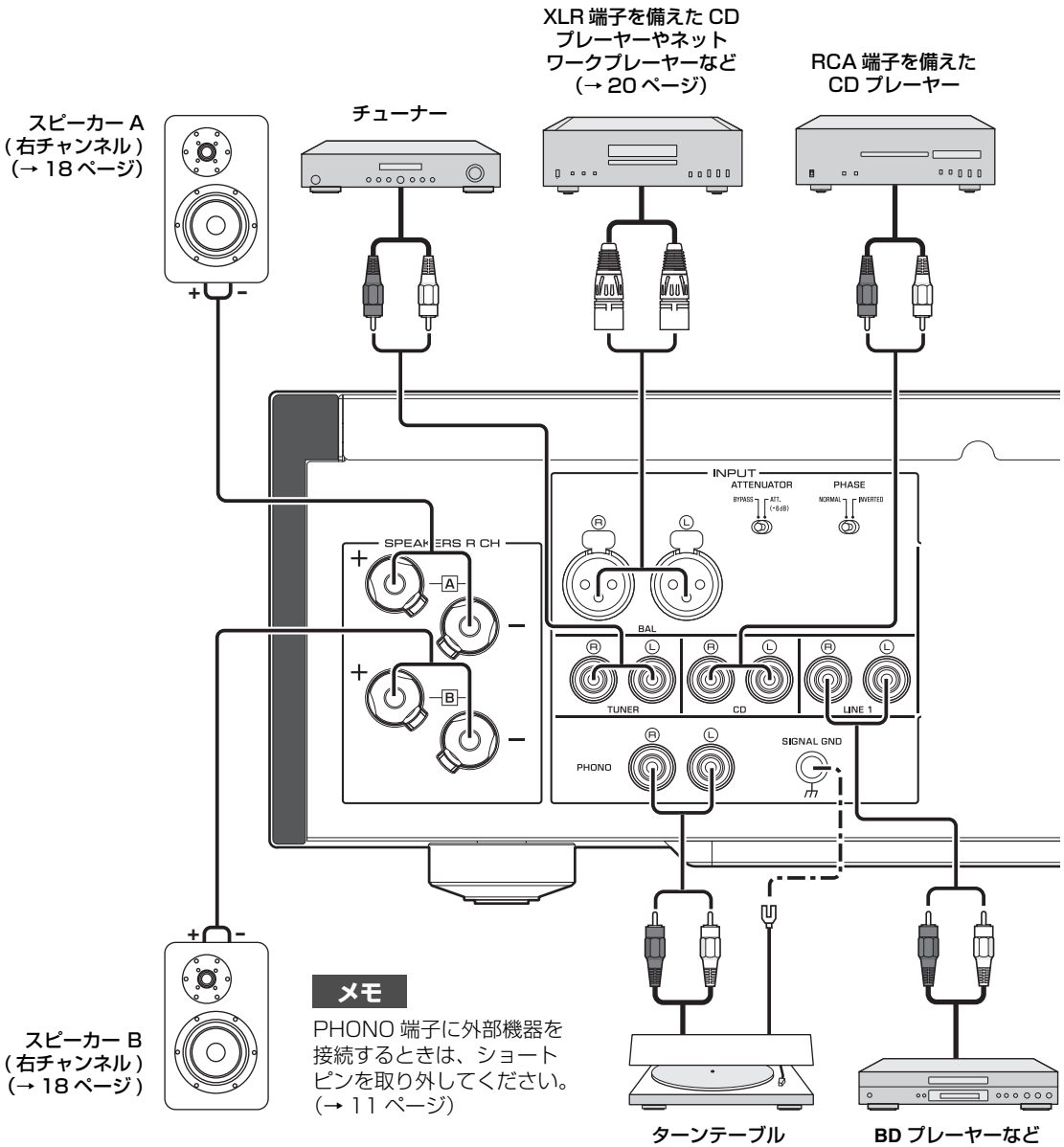
接続

この章では、本機、各スピーカー、ソース機器間の
接続について説明しています。

接続

接続全体図

> **注意**
> すべての接続が終了してから電源コードをコンセントに接続してください。（→ 22 ページ）

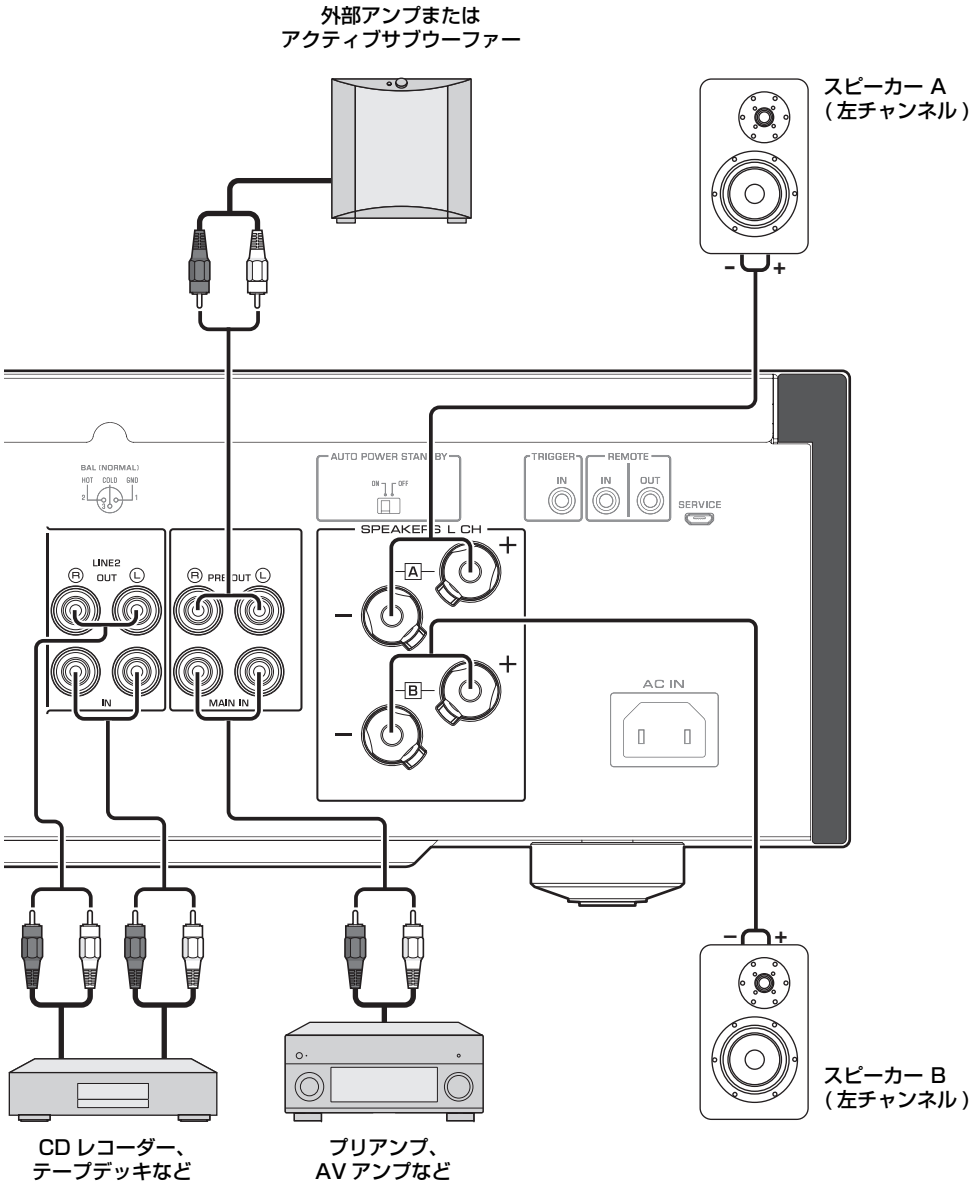


メモ

PHONO 端子に外部機器を接続するときは、ショートピンを取り外してください。（→ 11 ページ）

注意

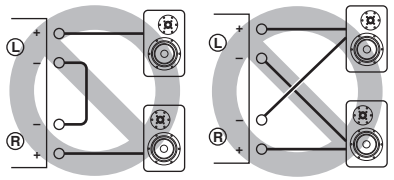
MAIN IN 端子に接続した場合、本機の音量は固定となるため、音量調整機能がない CD プレーヤーなどを接続しないでください。大きな音で動作し、本機やスピーカーが故障する可能性があります。



メモ

- 本機は、フローティングバランスアンプ搭載のため、以下の接続はできません。
  - 左右チャンネルの「+」端子どうしや「−」端子どうしを接続する（図1）。
  - 左チャンネルの「−」端子と右チャンネルの「−」端子を逆接続（クロス接続）する（図2）。
  - 左右チャンネルの「−」端子と本機リアパネルの金属部分とを接続または接触させる。

図1　図2

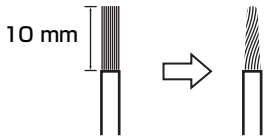


- アクティブサブウーファーを SPEAKERS L/R CH 端子に接続しないでください。サブウーファーは本機の PRE OUT 端子に接続してください。

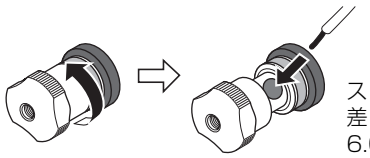
スピーカーを接続する

■ スピーカーケーブルで接続する

1　スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を約 10 mm はがし、芯線をしっかりとよじる。



2　スピーカー端子のつまみを左に回してネジをゆるめ、横の穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。



スピーカーケーブル差し込み穴の径：6.0 mm

3　つまみを右に回して、締め付ける。



⚠ 注意

- つまみを左に回し過ぎると、つまみが本機から外れます。外れたつまみを誤ってお子様が飲み込むおそれがありますのでご注意ください。
- 本機の電源がオンのときにスピーカー端子に触れないでください。感電するおそれがあります。

注意

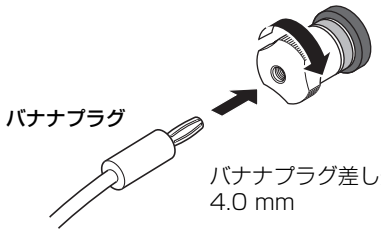
- スピーカー端子が金属製ラックに触れるとショートし、本機が故障するおそれがあります。スピーカー端子がラックに触れないように十分な距離を取って設置してください。
- スピーカーケーブルの芯線は、他のスピーカーケーブルの芯線または本機の金属部分とは接触させないでください。本機やスピーカーが故障することがあります。

メモ

すべてのケーブルは、L（左）はLに、R（右）はRに、「+」は「+」に、「−」は「−」に正しく接続してください。接続についてはスピーカーの取扱説明書も参照してください。

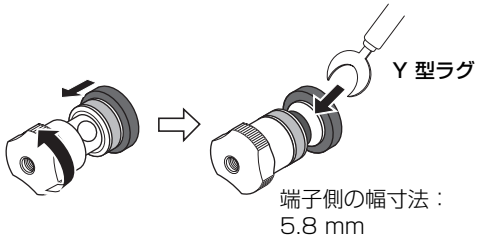
■ バナナプラグで接続する

バナナプラグを使用する場合は、スピーカー端子を強く締めてから差し込んでください。



■ Y 型ラグで接続する

1 スピーカー端子のつまみを左に回してネジをゆるめ、リング部と基部の間に Y 型ラグをはさむ。



2 つまみを右に回して、締め付ける。



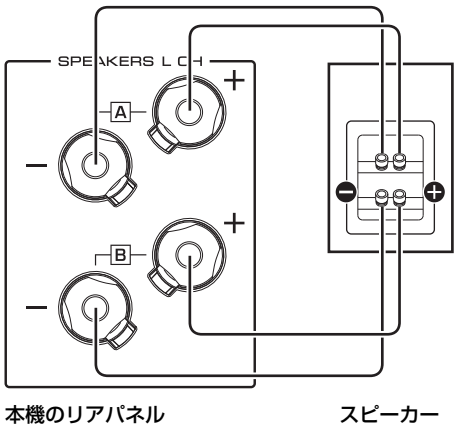
バイワイヤリング接続する

バイワイヤリング接続により、ウーファーを中高音部から分離させることができます。バイワイヤリング接続対応スピーカーには４個の接続端子があり、これらの２組の端子によってスピーカーを独立した２部分に分割できます。この接続では、中高音ドライバーを１組の端子に、低音ドライバーをもう１組の端子に接続します。

1 スピーカーのショート用のバーやブリッジを取り外す。

2 本機とスピーカーを以下の図のように接続する。

左チャンネルの接続例



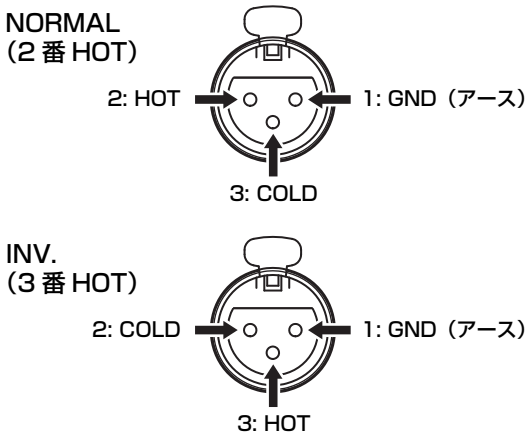
3 フロントパネルの SPEAKERS セレクターを A+B BI-WIRING にする。

バランス接続する

BAL 端子に XLR コネクター式のバランス出力端子を備えた CD プレーヤーやネットワークプレーヤーなどを接続します。接続には XLR バランスケーブルをご使用ください。

ATTENUATOR（アッティネーター）スイッチ： バランス入力端子の許容入力レベルを切り替えます。接続した機器からの音が歪む場合は、スイッチを ATT.(− 6dB)に切り替えてください。

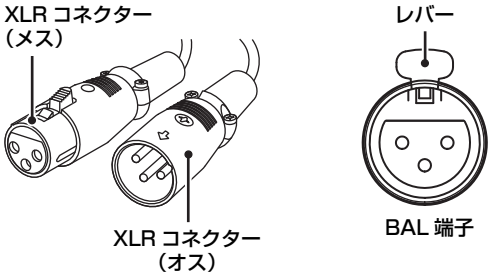
PHASE（フェーズ）スイッチ： バランス入力端子の HOT ピンの位置(2 番 HOT/3 番 HOT)を切り替えます。



接続機器のバランス出力端子の HOT ピンの位置は、接続機器の取扱説明書で確認してください。

メモ

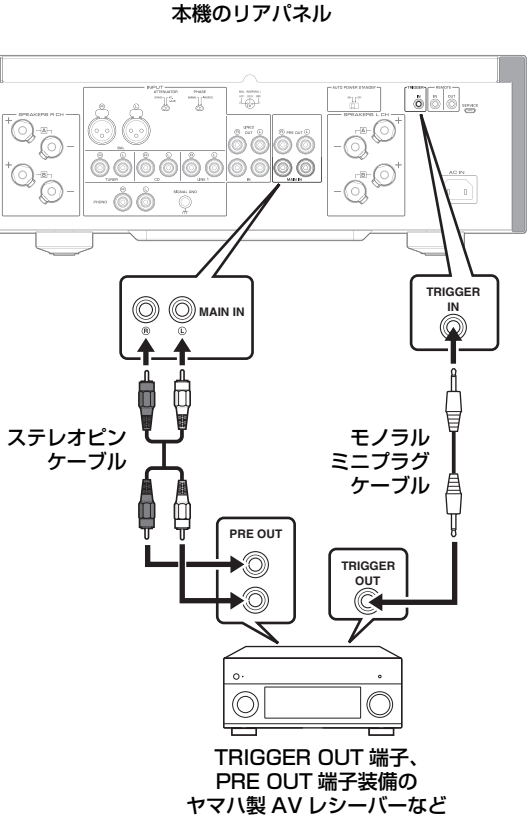
- ヤマハ製プレーヤーは NORMAL（2 番 HOT）です。
- 一つの機器に対してバランス接続とアンバランス接続を同時に使用しないでください。アースがループしてノイズの原因になります。
- 接続するときは、必ずピンどうしを合わせ、XLR コネクター（オス）を「カチッ」と音がするまで差し込みます。接続を外すときは、BAL 端子のレバーを押しながら XLR コネクター（オス）を抜きます。



- バランス接続を使用するときは、入力ソースを BAL にしてください。

トリガー接続する

トリガー機能対応のヤマハ製 AV レシーバーなどを接続します。接続機器の操作に連動して本機を制御できます。



接続機器の電源をオンにすることによって、本機の電源をオンにすることができます。同時に本機の入力が MAIN DIRECT に切り替わります。
また、本機の入力ソースに MAIN DIRECT を選択しているときは、接続機器の電源をオフにすると本機も連動してスタンバイになります。

メモ

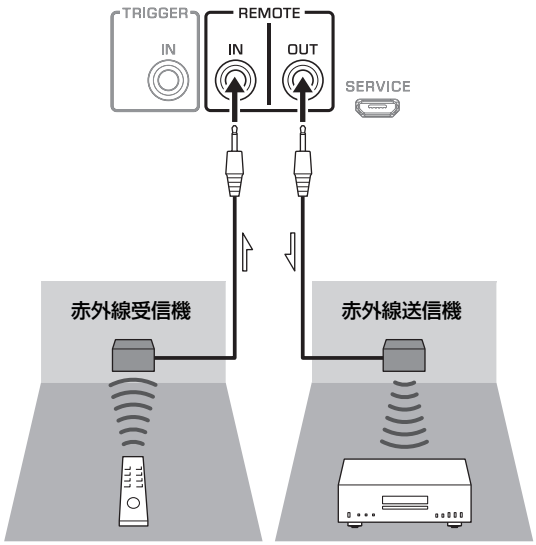
本機の電源スイッチがオフのときは連動しません。

リモート接続する

■ 別の部屋から本機を操作する

市販の赤外線受信機と送信機を本機の REMOTE IN/OUT 端子に接続すれば、付属のリモコンで、別の部屋から本機や外部機器を操作できます。

本機のリアパネル



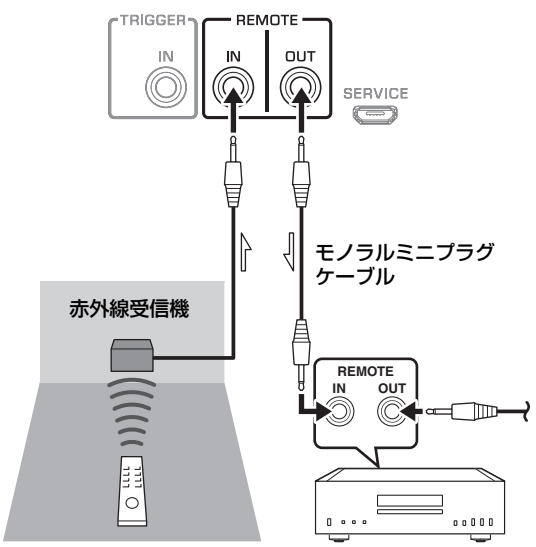
リモコン

外部機器
（CD プレーヤーなど）

■ ヤマハ製機器間でリモート接続する

リモート接続に対応している別のヤマハ製機器をお使いの場合は、赤外線送信機は不要です。下図のように赤外線受信機を本機の REMOTE IN/OUT 端子に接続します。
接続できるヤマハ製機器の数は、本機を含めて 3 台までです。

本機のリアパネル

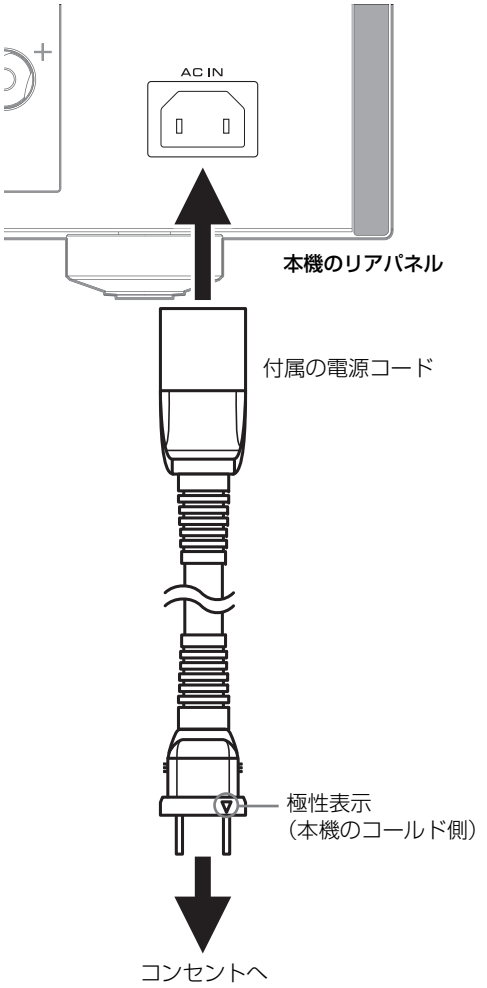


リモコン

ヤマハ製機器
（本機を含め最大 3 台まで）

電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、電源コードを本機の AC IN 端子に差し込み、家庭用 AC100 V、50/60 Hz のコンセントに電源プラグを接続します。



メモ

- 付属の電源コードの▽マークは極性（本機のコールド側）を示しています。
- 接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

付録

この章には本機の技術仕様を掲載しています。

付録

仕様

定格出力（20 Hz ～ 20 kHz、0.07% THD）
2 チャンネル同時駆動
8Ω ..... 90 W + 90 W
4Ω ..... 150 W + 150 W

ダイナミックパワー
8Ω ..... 105 W + 105 W
6Ω ..... 135 W + 135 W
4Ω ..... 190 W + 190 W
2Ω ..... 220 W + 220 W

実用最大出力（JEITA、1 kHz、10% THD）
8Ω ..... 120 W + 120 W
4Ω ..... 190 W + 190 W

出力帯域幅（0.1% THD 45 W）
2 チャンネル同時駆動
8Ω ..... 10 Hz ～ 50 kHz

ダンピングファクター（1 kHz）
8Ω ..... 250 以上

入力感度 / 入力インピーダンス（1 kHz、100 W/8Ω 換算）
PHONO（MC） ..... 150 μVrms / 50Ω
PHONO（MM） ..... 3.5 mVrms / 47 kΩ
CD 他 ..... 200 mVrms / 47 kΩ
MAIN IN ..... 1 Vrms / 47 kΩ
BAL ..... 200 mVrms / 100 kΩ

最大許容入力電圧（1 kHz、0.5% THD）
PHONO（MC） ..... 2.0 mVrms
PHONO（MM） ..... 50 mVrms
CD 他 ..... 2.80 Vrms
BAL
BYPASS ..... 2.80 Vrms
ATT.（− 6dB） ..... 5.60 Vrms

定格出力電圧 / 出力インピーダンス
LINE 2 OUT ..... 200 mVrms / 1.5 kΩ
PRE OUT ..... 1 Vrms / 1.5 kΩ

ヘッドホン定格出力（1 kHz、32Ω、0.2% THD）
..... 50 mW + 50 mW

周波数特性
5 Hz ～ 100 kHz ..... + 0 / − 3 dB
20 Hz ～ 20 kHz ..... + 0 / − 0.3 dB

RIAA イコライザ偏差
PHONO（MM/MC） ..... ±0.5 dB

全高調波歪率（JEITA、入力 0.5 V、20 Hz ～ 20 kHz）
2 チャンネル同時駆動
PHONO（MC）→ LINE 2 OUT、1.2 Vrms 0.02%
PHONO（MM）→ LINE 2 OUT、1.2 Vrms ... 0.005%
CD 他 /BAL → SPEAKERS OUT、50 W/8Ω
..... 0.035%

S/N 比（JEITA、IHF-A ネットワーク）
PHONO（MC） ..... 90 dB
PHONO（MM） ..... 96 dB
CD 他 ..... 110 dB
BAL ..... 114 dB

残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
..... 33 μVrms

チャンネルセパレーション（JEITA、1 kHz/10 kHz）
PHONO（MC） ..... 66/77 dB 以上
PHONO（MM） ..... 90/77 dB 以上
CD 他 /BAL ..... 74/54 dB 以上

トーンコントロール特性
BASS
可変幅 ..... 50 Hz / ±9 dB
ターンオーバー周波数 ..... 350 Hz
TREBLE
可変幅 ..... 20 kHz / ±9 dB
ターンオーバー周波数 ..... 3.5 kHz

電源電圧
..... AC 100 V、50/60 Hz

消費電力
..... 350 W

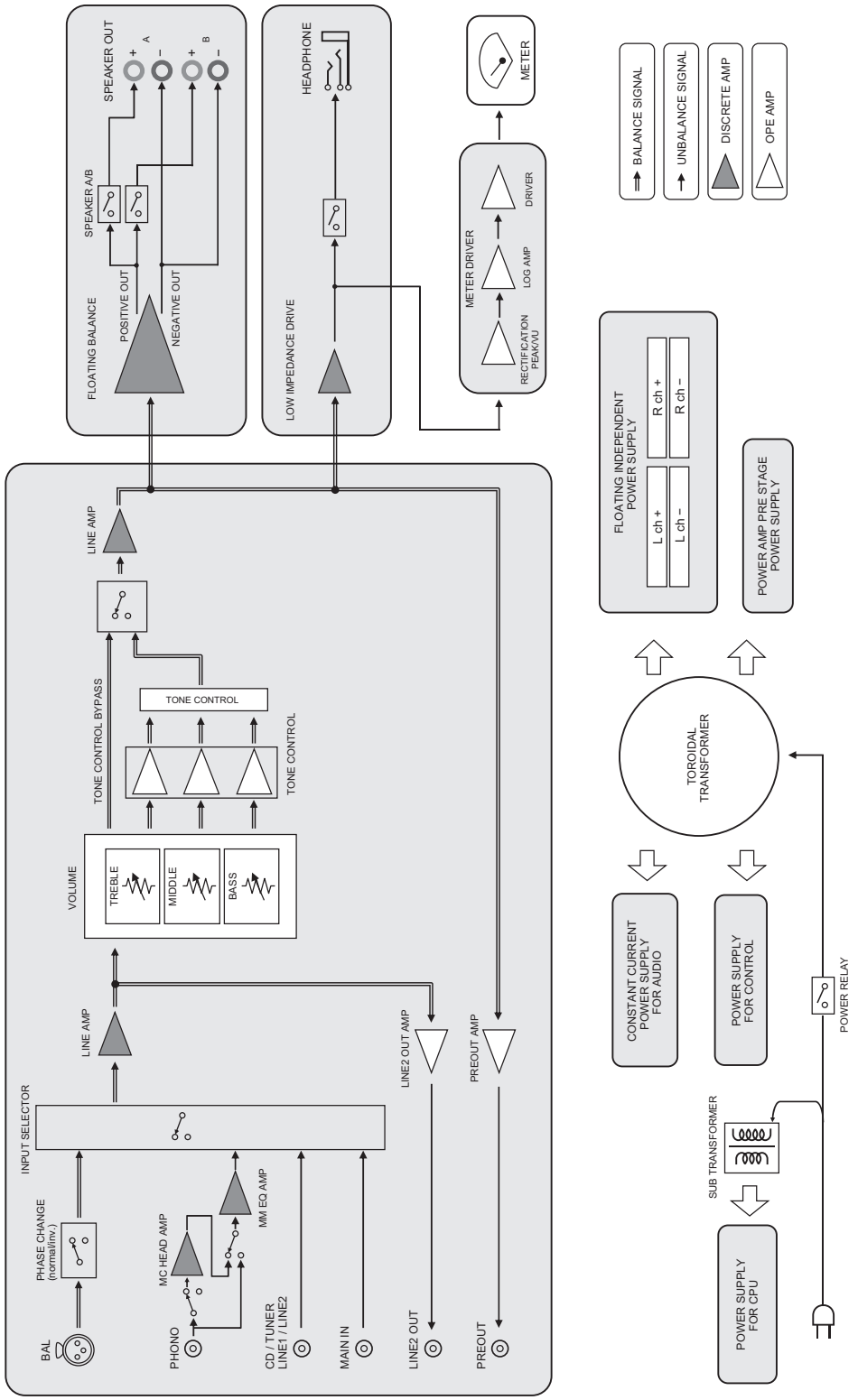
待機時消費電力
オフ ..... 0.1 W
スタンバイ ..... 0.2 W

寸法（幅 × 高さ × 奥行）
..... 435 × 157 × 463 mm

質量
..... 22.7 kg

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。
最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

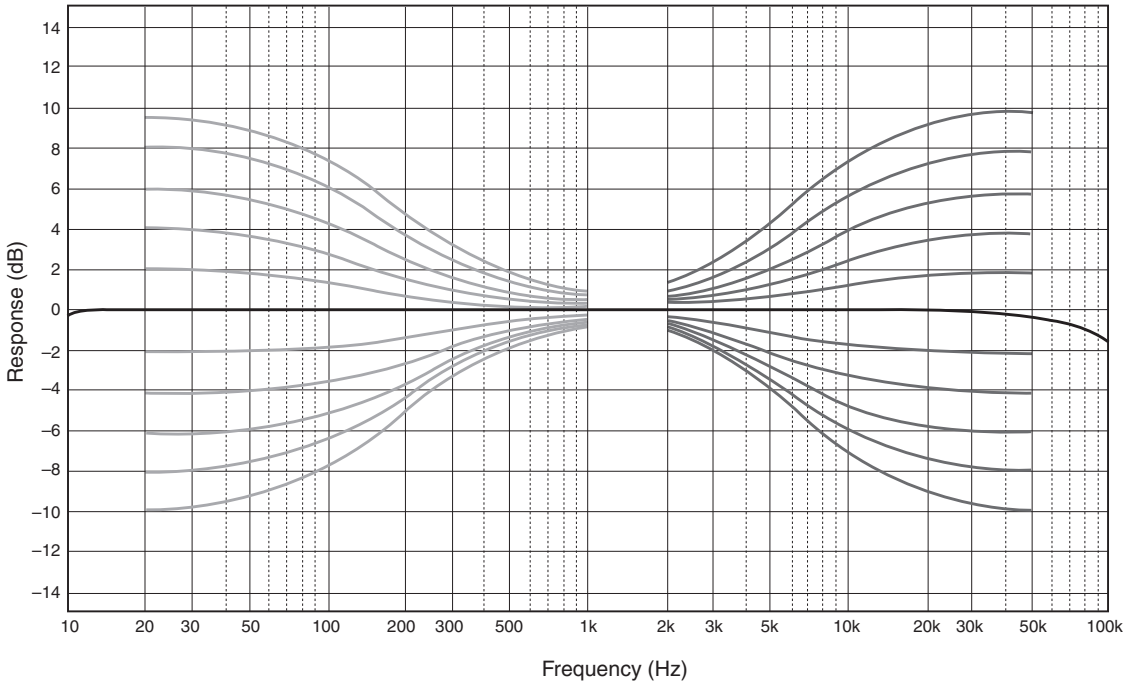
ブロックダイヤグラム


SPEAKER OUT
+
A
–
+
B
–
SPEAKER A/B
FLOATING BALANCE
POSITIVE OUT
NEGATIVE OUT
HEADPHONE
LOW IMPEDANCE DRIVE
METER
METER DRIVER
LOG AMP
DRIVER
RECTIFICATION
PEAK/VU
BALANCE SIGNAL
UNBALANCE SIGNAL
DISCRETE AMP
OPE AMP
FLOATING INDEPENDENT
POWER SUPPLY
L ch +
L ch –
R ch +
R ch –
POWER AMP PRE STAGE
POWER SUPPLY
LINE AMP
TONE CONTROL BYPASS
TONE CONTROL
TONE CONTROL
VOLUME
TREBLE
MIDDLE
BASS
TOROIDAL
TRANSFORMER
INPUT SELECTOR
LINE AMP
LINE2 OUT AMP
PREOUT AMP
PHASE CHANGE
(normal/inv.)
MC HEAD AMP
MM EQ AMP
CONSTANT CURRENT
POWER SUPPLY
FOR AUDIO
POWER SUPPLY
FOR CONTROL
POWER RELAY
SUB TRANSFORMER
BAL
PHONO
CD / TUNER
LINE1 / LINE2
MAIN IN
LINE2 OUT
PREOUT
POWER SUPPLY
FOR CPU

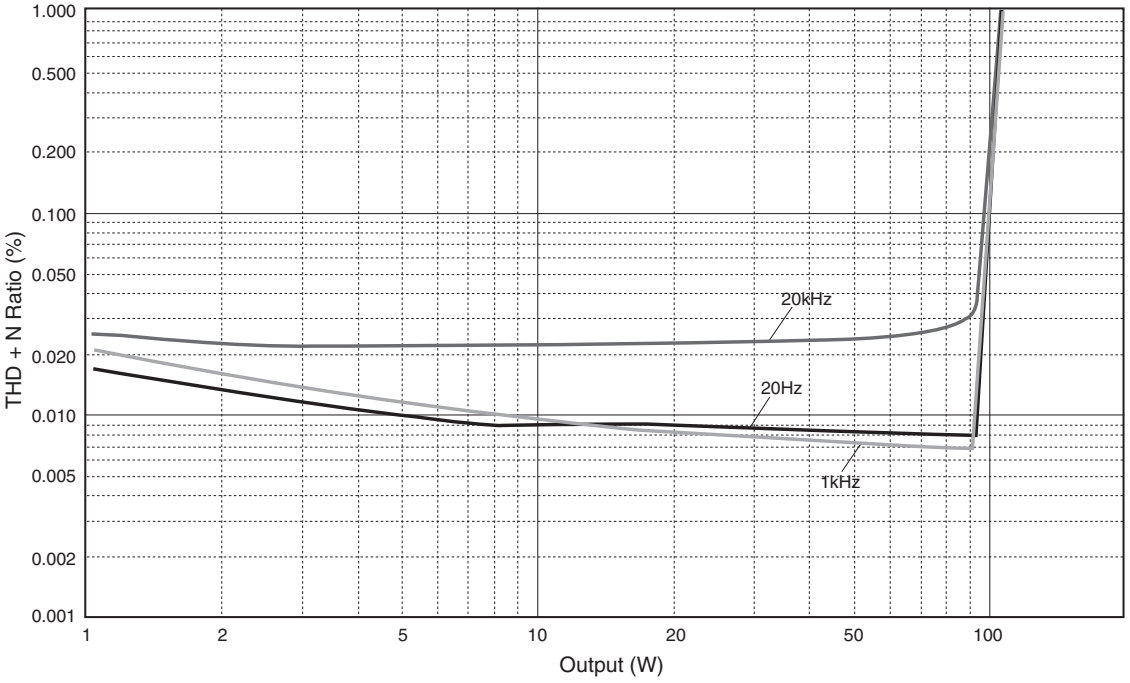
付録

音響特性

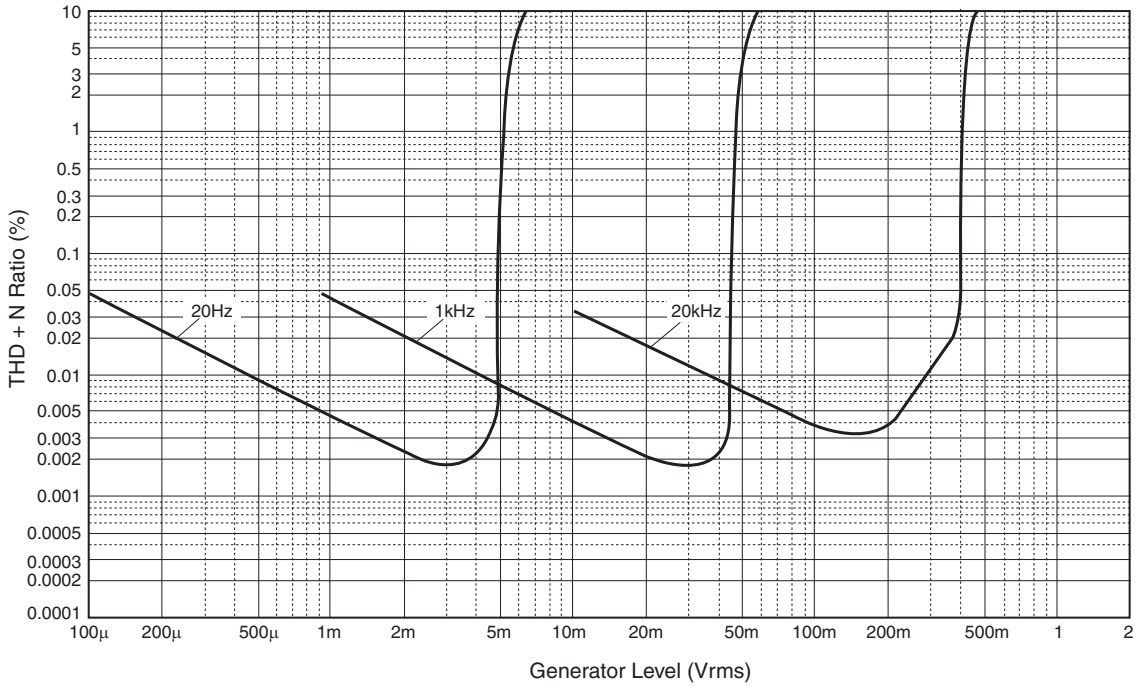
■ トーンコントロール特性



■ 全高調波歪率



■ 全高調波歪率（PHONO）



付録

困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合、下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	参照ページ
電源スイッチを操作しても電源が入らない	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードを正しく差し込み直してください。	22
	本機が外部電気ショック（落雷または過度の静電気）を受けた。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください	—
⏻（電源）インジケーターが点滅する	ショート等の原因で保護回路が動作した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度オンにしてください。	18
	本機内部の回路に異常がある。	電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ販売店にお問い合わせください	—
電源をオンにすると INPUT インジケーターが点滅し、音量が下がる	ショート等の原因で保護回路が動作した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度オンにしてください。	18
音声が出ない	ステレオピンケーブルが正しく接続されていない。	ステレオピンケーブルを正しく接続してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	16
	入力が正しく選択されていない。	フロントパネルの INPUT セレクター（またはリモコンの入力選択キー）で入力を選択し直してください。	8、12
	SPEAKERS セレクターが OFF になっている。	SPEAKERS セレクターを OFF 以外に切り替えてください。	7
	スピーカーケーブルが正しく接続されていない。	スピーカーケーブルの接続を確認してください。	18
音声が突然出なくなる	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が動作した。	スピーカーケーブルが互いに接触していないか、また、スピーカーケーブルが本機リアパネルの金属部分に接触していないか確認し、本機の電源を再度オンにしてください。	18
音量が調節できない	入力ソースに MAIN DIRECT が選択されている。	接続機器側の音量を調節してください。 または、MAIN IN 端子以外の端子に接続し入力ソースを切り替えてください。	8
片側のチャンネルの音がほとんど出ない	再生機器やスピーカーが正しく接続されていない。	接続を確認してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	16
	左右のスピーカーバランスが正しく調節されていない。	BALANCE つまみで左右のスピーカーバランスを適切に調節してください。	8
低音の再生不良	スピーカーやアンプの＋ / －が逆に接続されている。	＋ / －を確認して、正しく接続してください。	18

症状	原因	対策	参照ページ
ハム音が出る	ステレオピンケーブルが正しく接続されていない。	ステレオピンケーブルを正しく接続してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	16
	ターンテーブルのアースが SIGNAL GND 端子に接続されていない。	アースコードを本機の SIGNAL GND 端子に接続してください。	16
BAL 端子に接続した機器の再生音が歪む	バランス入力端子の許容入力レベルを超えています。	接続する再生機器のバランス XLR 出力がアンバランス RCA 端子の 2 倍の場合は、端子の下にある ATTENUATOR スイッチを ATT.（− 6dB）に切り替えてください。	20
BAL を選択したとき低音に立体感がない	極性が正しくない。	PHASE スイッチで極性を正しく設定してください。	20
本機に接続している CD プレーヤーやテープデッキにヘッドホンを接続して聴いていると音が歪む	本機の電源がオフになっている。	本機の電源を入れてください。	6
レコードの再生音が小さい	フロントパネルの PHONO スイッチの設定が間違っている。	ターンテーブルのカートリッジの種類に合わせて、PHONO スイッチを MM または MC の位置に合わせてください。	9
リモコンが操作できなかったり、正常に動作しない	リモコンの操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から 6 m 以内、角度 30° 以内でリモコン操作してください。	14
	本体のリモコン受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明または本機の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて新しいものに交換してください。	14

お手入れ

本体側面の鏡面部

ピアノ用のクリーニングクロスのご使用をおすすめします。

鏡面部以外

ベンジンやシンナーなどの化学薬品は使用しないでください。表面を傷めてしまうおそれがありますので、柔らかい布で乾拭きしてください。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル(全国共通) **0570-011-808**

受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

https://jp.yamaha.com/support/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル(全国共通) **0570-012-808**

受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）
*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

Yamaha Global Site
https://www.yamaha.com/

Yamaha Downloads
https://download.yamaha.com/

Manual Development Group
© 2020 Yamaha Corporation
2020年1月 発行
IPEM-A0

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

J　VCV3010